

広河原ルート登山口周辺の植生

2005/10/24

上杉 毅

10月に行われた阿智側からの石灰岩採掘現場の探査は途中、登山技術と装備の不足から同行を断念した。皆様にはご迷惑をおかけしたことをお詫びしたい。時間が十分に取れた分、登山口から神坂峠近くまでの植物をできるだけ丹念に調べてみた。そのリストが末尾の一覧である。私の行動範囲は愛知県、岐阜県を主に東は長野県、静岡県西部、西は三重県、滋賀県、北は福井県までだが、その観察のなかで分布が地理的に限られていて、面白く感じたものを太字で示す。

専門家によれば恵那山にはいくつかの植物群が重なって分布しているため、多様性が高いとされる。この評価は恵那山のみでなく東濃地方に向けられた言葉としてみれば納得しやすい。この場合よく引き合いに出されるのはソハヤキ要素だ。ソハヤキ要素は熊襲の「そ」、速吸の瀬戸の「はや」、紀州の「き」をつないだ造語で、九州から瀬戸内、紀伊半島にいたる広範囲に分布している植物群を指す。実際には赤石山脈、木曾山脈を東限とするものが多いので、ソハヤキ要素のキは「木曾」とすべきかもしれない。ただ私にはソハヤキ要素植物群といってももうひとつピンと来ない。もちろん私の観察記録には各所でテバコモミジガサがあるほか、恵那山麓のギンバイソウ、二ツ森山のシコクスミレ、そしてハガクレツリフネソウの変種とされる茶臼山のエンシュウツリフネソウなどソハヤキ要素といわれる

ものがある。しかしそれらは密度が低く、植物群という言葉から連想するまとまりのある印象はない。日本海側の要素としてマルバマンサク、ヒメモチ、エゾユズリハ、ヒメアオキなどがセットで高密度に出現するのはかなり異なっている。あえて言うならシロモジやカナクギノキなどが西日本から愛知・岐阜県までいたるところに見られる一方、伊那谷から東には見られないことが思い出されるが、普段出会っているものに出会わないことに気付くのは難しい。東海地方を観察の場にする自分にとって「灯台下暗し」の喩えどおり、ソハヤキ要素は見れども見えないものかもしれない。

富士山から南アルプス、八ヶ岳にかけて見られるフォッサマグナ要素は東濃地方であり多くはないが、蛇峠山のニシキウツギ、大入溪谷や静岡県の犬山段などで出会ったイワシャジンなど印象深いものが多い。代表種のフジアザミは岐阜県白川村でも少なからず見られるので、どう解釈すべきか迷うが、巨大な花と葉は「フジ」の名前とあいまって覚えやすく忘れにくい。

周伊勢湾要素はシラタマホシクサやトウカイコモウセンゴケなどが挙げられるが、恵那山に近いものとして恵那市千旦林のシデコブシ自生地は印象深い。シデコブシは渥美半島、愛知県瀬戸市、岐阜県土岐市などでも観察をしているが、不思議なことに芳香を感じたのは千旦林の

ものだけだ。さらに根ノ上高原のミカワシオガマも忘れることが出来ない。

ただ 3 つの植物群以外に分布上面白いことがいくつもある。広河原や黒井沢の登山口は標高から見ればブナ林であって不思議ではないが、ブナは少なく、ウラジロモミが多い。愛知県内まで南下すればブナが優占することが多く、ほぼ 20 キロメートルの間で形成が逆転するわけだ。一般に内陸部ほどウラジロモミが多いことが知られているので、この違いは海洋からの距離がもたらしていることになる。太平洋側ブナ林の要素であるスズタケも黒井沢などで観察できるが、密度は高くない。

ホソエカエデは中央アルプスに多いが、恵那山より西で観察した記憶がない。福島・群馬・埼玉・神奈川・山梨・長野・静岡・岐阜・奈良・徳島・鹿児島などでは自生の報告があるというから、関東と中部に分布の中心があるようだ。ハスノハイチゴは恵那山から北 60 キロほどの川上岳まではよく観察されるが、東日本には分布せず、西日本でも数は多くない。オオバアサガラ、マルバノキ、コウヤマキ、アスナロ、ミヤマトサミズキなどは中部以西にも広く分布するとされるが、東濃地方でなぜか密度が高い。ネコノメソウ属では東海三県にのみ自生するキバナハナネコノメ、愛知県と岐阜県のみで確認されているトウノウネコノメ、鈴鹿山地では希少なのに黒井沢や愛知県面の木峠には多いコガネネコノメソウなどがある。ヒナノウスツボは南アルプスから長野県南部には観察記録があるものの、ほかの場所では記憶がない。このように数多くの草木が東濃地方を東限、あるいは

西限とするだけでなく、粗密の変化をともなって分布している。その様子になにやら謎めいた符合を感じるのは私だけではないだろう。

アカバナ科, アカバナ
 イチヤクソウ科, ベニバナイチヤクソウ
 イネ科, ヒメノガリヤス
 イネ科, ススキ
 イラクサ科, クサコアカソ, アカソ
 イワウメ科, イワカガミ
 イワデンダ科, イヌガンソク
 ウコギ科, ウド, タラノキ, コシアブラ
 ウルシ科, ヤマウルシ
 エゴノキ科, コハクウンボク, **オオバアサガラ**
 オシダ科, シノブカグマ, ジュウモンジシダ, イノデ, オシダ
 カエデ科, オガラバナ, コミネカエデ, チドリノキ, コハウチワカエデ, ハウチワカエデ, ヒナウチワカエデ, オオモミジ, オオイタヤメイゲツ, イタヤカエデ, ミネカエデ, アサノハカエデ, **ホソエカエデ**
 カガイモ科, イケマ
 カタバミ科, コミヤマカタバミ
 カツラ科, ヒロハカツラ, カツラ
 カバノキ科, ツノハシバミ, クマシデ, アカシデ, ダケカンバ, ヤマハンノキ, ウダイカンバ, ミズメ
 キキョウ科, ツルニンジン
 キク科, フキ, セイヨウノコギリソウ, メタカラコウ, モミジガサ, ゴマナ, サワヒヨドリ, フクオウソウ, ヤクシソウ, オクヤマコウモリ, アキノキリンソウ, ヤマハハコ, オオヨモギ, アズマヤマアザミ, オクモミジハグマ, ノコンギク, ヤマシロギク

キブシ科, キブシ
 キンポウゲ科, クサボタン, ボタンヅル,
 カワチブシ
 クスノキ科, クロモジ, アブラチャン, **ウ**
スゲクロモジ
 クマツヅラ科, クサギ, ムラサキシキブ
 クルミ科, サワグルミ
 コバノイシカグマ科, イヌシダ
 ゴマノハグサ科, **ヒナノウスツボ**
 シシガシラ科, シシガシラ
 シソ科, ナギナタコウジュ, **コウシンヤマ**
ハッカ
 スイカズラ科, オオカメノキ, ニワトコ,
 ツクバネウツギ, オトコヨウゾメ
 スミレ科, タチツボスミレ
 セリ科, ミヤマセンキュウ, シシウド
 タデ科, ハナタデ, ミズヒキ, ミヤマタニ
 ソバ
 ツツジ科, バイカツツジ, ツリガネツツジ,
 コアブラツツジ, ホツツジ
 トチノキ科, トチノキ
 ナス科, ヤマホロシ
 ニシキギ科, マユミ, ツルウメモドキ
 バラ科, バライチゴ, クマイチゴ, キンミ
 ズヒキ, ミツバツチグリ, **ハスノハイチゴ**,
 シモツケソウ, モミジイチゴ
 ヒノキ科, **アスナロ**, ヒノキ, サワラ
 ヒメシダ科, ミヤマワラビ
 フウロソウ科, ゲンノショウコ
 フサザクラ科, フサザクラ
 フジウツギ科, **フジウツギ**
 ブドウ科, ヤマブドウ
 ブナ科, クリ, ミズナラ
 ボダイジュ科, シナノキ
 マタタビ科, サルナシ
 マツ科, ヒメコマツ, **ウラジロモミ**, カラ
 マツ, ツガ
 マツブサ科, マツブサ
 ミカン科, サンショウ
 ミズキ科, ミズキ
 モクセイ科, アオダモ
 モクレン科, タムシバ
 モチノキ科, **フウリンウメモドキ**, アオハ
 ダ, **クロソヨゴ**
 ヤナギ科, ネコヤナギ, イヌコリヤナギ,
 オノエヤナギ, ヤマネコヤナギ
 ヤマグルマ科, ヤマグルマ
 ユキノシタ科, タマアジサイ, ノリウツギ,
 ヤマアジサイ, コアジサイ, クロクモソウ,
 ズダヤクシュ, チダケサシ, ウツギ, ツル
 アジサイ, イワガラミ, バイカウツギ, ツ
 ルネコノメソウ
 ユリ科, **タマガワホトトギス**
 リョウブ科, リョウブ

(愛知県瀬戸市)